

平成 31 年度事業報告書

I. 事業の概要

本財団の設立目的に添って平成 31 年度も、細胞科学分野における研究助成 10 件、国内若手研究者の育成助成として海外への留学 4 件、国際交流助成として国際学会等への研究者招聘 6 件を実施した。

令和 2 年度の各種助成のためにそれぞれの募集細目を検討・決定し新たに導入した Web システムにて募集を行った結果、研究助成 39 件、育成助成 4 件、国際交流助成 4 件の応募があった。これらについて、選考委員会による厳正なる審査を行い、令和 2 年度助成対象者を選出した。また、平成 29 年度各種助成金贈呈者の研究成果として、研究助成報告、育成助成報告および国際交流助成報告等をまとめ、助成研究報告集を発刊した。

II. 事業の内容

1. 平成 31 年度助成金の交付

平成 31 年度各種助成については、研究助成 10 件、育成助成 4 件および国際交流助成 6 件が平成 31 年 3 月 6 日開催の平成 30 年度第 3 回理事会において議決承認された。平成 31 年 4 月より研究助成 10 件（1 件 300 万円、総額 3,000 万円）、育成助成 4 件（1 件 240 万円、総額 960 万円）および国際交流助成 6 件（1 件 50 万円、総額 300 万円）のそれぞれに順次、助成金を交付した。〔資料 1〕

2. 平成 31 年度研究助成金贈呈式開催

平成 31 年度研究助成受領者を対象に研究助成金贈呈式を次のとおり開催した。

開催日時：令和元年 6 月 1 日（土）午前 11 時 30 分より

場 所：ホテル阪急インターナショナル（大阪市北区茶屋町 19-19）

3. 令和 2 年度助成事業

（1）各種助成の募集の細目

平成 31 年 4 月 19 日開催の企画委員会での検討を経て、令和元年 5 月 8 日の第 1 回理事会（書面決議）で以下のように決定した。

研究助成

募集テーマ：①NAFLD・NASHの基礎と臨床

②遺伝子治療・最近の進歩

応募受付期間：令和元年9月2日から令和元年9月30日まで

専門委員：テーマ① 竹原 徹郎（大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学 教授）

持田 智（埼玉医科大学病院 消化器内科・肝臓内科 教授）

小池 和彦（東京大学大学院医学系研究科 消化器内科学 教授）

テーマ② 小澤 敬也（自治医科大学名誉教授、免疫遺伝子細胞治療学
[タカラバイオ]講座 客員教授）

小野寺 雅史（国立成育医療研究センター 研究所 成育遺伝研究部
部長）

清水 孝雄（国立国際医療研究センター プロジェクト長、
東京大学名誉教授）

※所属・役職は就任時

育成助成および国際交流助成

応募受付期間：令和元年9月2日から令和元年10月31日まで

[資料2]

(2) 募集

研究助成

全国の国公立医学系、薬学系、一部の理学系大学、研究機関および大学附設の研究施設 170 余を対象に募集要項を郵送するほか財団ホームページに公開した結果、応募数は計 39 件（テーマ①：21 件、テーマ②：18 件）であった。

育成助成

理事および評議員に候補者の推薦を依頼するとともに財団ホームページに公開した結果、応募数は 4 件（海外）であった。

国際交流助成

理事および評議員に候補者の推薦を依頼するとともに財団ホームページに公開した結果、応募数は 4 件（招聘）であった。

(3) 選考

研究助成：三段階方式による選考

1. 令和元年10月10日～11月11日：テーマ別の選考委員および専門委員による第一次予備審査（書面）により第二次予備審査対象として17件（テーマ①：9件、テーマ②：8件）に絞られた。
2. 令和元年11月27日～令和2年1月9日：選考委員および専門委員による第二次予備審査（書面）が行われた。
3. 令和2年1月28日：本審査（以下の通り）

育成助成および国際交流助成

1. 令和元年11月27日～令和2年1月9日：選考委員による予備審査（書面）により採点。
2. 令和2年1月28日：本審査（以下の通り）

令和2年1月28日：本審査

開催日時：令和2年1月28日（火）午後5時30分より

場 所：東京ステーションホテル（東京都千代田区丸の内1-9-1）

選考委員および専門委員により令和2年度各種助成交付対象者（研究助成10件、1件300万円総額3,000万円、育成助成4件、1件240万円総額960万円および国際交流助成4件、1件50万円総額200万円）が選出され、理事長に答申された。令和2年3月5日に開催された第3回理事会において、原案通り議決承認された。

[資料3]

4. 助成研究報告集等

平成29年度各種助成金受領者の研究成果として、研究助成報告、育成助成報告および国際交流助成報告等をまとめた細胞科学研究財団助成研究報告集第30巻（令和元年）、および財団年報第31号（平成30年度）を一冊にまとめて「助成研究報告集・年報第4巻（令和元年）として令和元年10月1日に発刊し、全国の国公立医学系、薬学系、一部の理学系大学、研究機関、大学附設の研究施設および国会図書館等に送付した。

Ⅲ. 財団運営の概況

1. 第1回理事会（理事会の決議の省略による方法）

理事長は、理事及び監事の全員に対して理事会の決議の目的である事項について次の内容の提案書を発送し、令和元年5月8日までに理事の全員から同意する旨の意思表

示を、また監事全員から異議がない旨の承諾を得て当該事項が承認可決された。

第1号議題 平成30年度事業報告および平成30年度財務諸表の件：原案通り承認可決された。

第2号議題 令和2年度各種助成募集に関する件：原案通り承認可決された。

第3号議題 特定資産の資産区分変更の件：原案通り承認可決された。

第4号議題 平成31年度定時評議員会開催日、場所、目的である事項の件：原案通り承認可決された。

第5号議題 選考委員会規程改定の件：原案通り承認可決された。

2. 定時評議員会

開催日時：令和元年6月1日（土）午前11時より

場 所：ホテル阪急インターナショナル（大阪市北区茶屋町19-19）

第1号議題 議長選任の件：互選により名取俊二氏が評議員会議長に選任された。

第2号議題 議事録署名人選任の件：議長のほか互選により大谷光昭氏および畑中一浩氏が選任された。

第3号議題 平成30年度事業報告および平成30年度財務諸表の件：原案通り承認可決された。

第4号議題 評議員選任の件：原案通り承認可決された。

第5号議題 特定資産の資産区分変更の件：本議題を取り下げることが承認可決された。

報告事項1 令和2年度各種助成募集について：平成31年度第1回理事会で承認されたことを報告した。

報告事項2 助成事業のWebシステム導入の件：平成30年度第3回理事会で承認されたことを報告した。

3. 第2回理事会

開催日時：令和元年6月1日（土）午後2時より

場 所：ホテル阪急インターナショナル（大阪市北区茶屋町19-19）

第1号議題 定期提出書類の件：原案通り承認可決された。なお、収支相償の未充足による剰余金については、今年度の公益目的事業で使用することで承認可決した。

第2号議題 第31回国際生物学オリンピック2020長崎大会への寄付の件：原案通

り承認可決された。

報告事項 1 理事長及び常務理事の業務執行状況報告：理事長及び常務理事は平成31年3月6日以降の業務執行状況報告を行った。

報告事項 2 助成事業のWebシステム導入の件：3社から見積もり等を入手し検討した結果、株式会社あさひ印刷に決定したことを報告した。

4. 第3回理事会

開催日時：令和2年3月5日（木）午後5時より

場 所：塩野義製薬株式会社東京支店
(東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング7階)

第1号議題 基本財産及び特定資産管理規程改定の件：原案通り承認可決された。

第2号議題 第三回塩野賞準備資金設置の件：原案通り承認可決された。

第3号議題 令和2年度事業計画の件：原案通り承認可決された。

第4号議題 令和2年度収支予算の件：原案通り承認可決された。

第5号議題 資金調達及び設備投資の見込みについて：原案通り承認可決された。

第6号議題 令和2年度助成交付者の件：原案通り承認可決された。

第7号議題 選考委員任期満了に伴う改選及び選考委員長選定の件：原案通り承認可決された。

第8号議題 理事任期満了に伴う改選の件：原案通り承認可決された。

第9号議題 名誉理事選任の件：原案通り承認可決された。

第10号議題 特定資産の資産区分変更の中止について：原案通り承認可決された。

理事長からの追加議題

平成31年度国際交流助成金交付対象学会の中止および延期について：新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、対象学会の開催が中止および延期になった2件への対応について、これまでの準備費用及び中止に伴う費用への利用、また延期時の利用を認め、要した費用を差し引いて余剰があれば返金を求めることで承認可決された。また、対応結果については理事会において報告することについて同意を得た。

報告事項 1 評議員任期満了に伴う改選の件：評議員会で選任する候補者案について報告を行った。

報告事項 2 理事長及び常務理事の業務執行状況報告：理事長及び常務理事は平成31年度第2回理事会以降本日までの業務執行状況報告を行った。

5. その他

- 令和元年 6 月 14 日 内閣府に平成 30 年度事業報告書等の定期提出書類を Web 提出した。
- 令和元年 7 月 12 日 内閣府に評議員の変更届を Web 提出した。
- 令和元年 11 月 6 日 監事監査
- 令和元年 12 月 13 日 内閣府立入検査
- 令和 2 年 3 月 23 日 内閣府に令和 2 年度事業計画および予算の定期提出書類を Web 提出した。

IV. 添付資料

- 〔資料 1〕平成 31 年度各種助成金受領者名簿
- 〔資料 2〕令和 2 年度各種助成募集要項
- 〔資料 3〕令和 2 年度各種助成金受領者名簿

以上

平成 31 年度 研究助成金受領者
(第 3 回理事会において議決)

(1 件 300 万円 10 件, 計 3,000 万円)

テーマ 1 : 心不全-基礎と臨床

研究者	所属機関・職名	研究題目
稲垣 薫克 イカキ タカカツ	国立循環器病研究センター 血管生理学部・上級研究員	IL-6 シグナルによる重症肺高血圧症及び右心不全の病態形成機構の解明と新規治療法の開発
西田 基宏 ニシダ モトヒロ	九州大学大学院薬学研究院 創薬育薬研究施設統括室・教授	ミトコンドリア品質管理に着目した新規心不全治療戦略の構築
野村 征太郎 ノムラ セイタロウ	東京大学医学部附属病院 循環器内科・特任助教	シングルセルオミックス解析による心筋細胞可逆性の制御機構の解明とその臨床応用
肥後 修一郎 ヒゴ シュウイチロウ	大阪大学大学院医学系研究科 重症心不全内科治療学寄附講座・寄附講座准教授	アレル改変疾患 iPS 細胞を用いた難治性心筋症分子基盤に介入する治療法創出
松浦 勝久 マツウラ カツヒサ	東京女子医科大学 先端生命医学科学研究所・准教授	血管新生抑制機序を介した心臓の恒常性および心不全増悪機序の解明
向井 康治朗 ムカイ コウジロウ	東北大学大学院 生命科学研究科 細胞小器官疾患学分野・助教	心筋梗塞に伴う炎症応答における STING 経路の活性制御機構の解明
横山 真隆 ヨコヤマ マサタカ	千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学・特任准教授	単一細胞解析による「心臓特異的な」Angiocrine Factor の同定と心不全における新たな病態的役割の解明

テーマ 2 : 感覚の基礎と臨床

研究者	所属機関・職名	研究題目
菊田 周 キクタ シュウ	東京大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・特任講師	新生嗅細胞の分化・成熟過程におけるインスリンの役割の解明
竹内 春樹 タケuchi ハルキ	東京大学大学院薬学系研究科・特任研究員	嗅覚刺激に基づく認知症予防効果の検証
茶屋 太郎 チャヤ タロウ	大阪大学蛋白質研究所 分子発生学研究室・助教	環境に適合した光応答を可能にする網膜神経回路のスイッチング制御機構の解明

平成 31 年度 育成助成金受領者
(第 3 回理事会において議決)

(1 件 240 万円 4 件, 960 万円)

(海外)

研究者	所属機関名・職名	研究題目・留学先
竹田 充伸 タケダ ミツブ	大阪大学医学系研究科 消化器外科学・医員	ミトコンドリア代謝に基づいた大腸癌幹細胞標的治療薬の開発 The University of Texas MD Anderson Cancer Center
玉井 望雅 タマイ ミリ	山梨大学医学部小児科・ 医員	ES/iPS 細胞を用いた正常造血及び白血病発症モデルにおける胚細胞変異の多様性の意義 Washington University School of Medicine in St. Louis
平塚 健 ヒラツカ ケン	慶應義塾大学医学部 腎臓 内分泌代謝内科・共同研究 員	3D バイオプリンターを用いたミニ腎臓の作成と腎線維化モデルの構築 Harvard Medical School, Brigham and Women's Hospital
星 雄二郎 ホシ ユウジロウ	東京大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・ 特任臨床医	聴力温存を考慮した人工内耳挿入に伴う蝸牛内細胞障害の 3 次元解析 Dept of Otolaryngology-Head and Neck Surgery University of Iowa Hospitals and Clinics

平成 31 年度 国際交流助成金受領者
(第 3 回理事会において議決)

(1 件 50 万円 6 件, 300 万円)

(招聘)

招聘者名 所属機関	被招聘者名 所属機関	国際学会名・招聘研究機関名 期間・開催地
青木 淳賢 アキ ジュンケン 東北大学大学院薬 学研究科 分子細 胞生化学分野	遠山 祐典 シンガポール国立大学 メカ ノバイオロジー研究所	第 92 回日本生化学会大会 2019 年 9 月 18 日(水)～20 日(金) パシフィコ横浜 (横浜市西区みなとみ らい 1 丁目 1-1)
掛谷 秀昭 カヤ ヒデアキ 京都大学大学院薬 学研究科	Jörn Piel ETH Zürich	日本薬学会第 140 年会 2020 年 3 月 25 日(水)～3 月 28 日(土) 国立京都国際会館 他
楠 進 クスキ スム 近畿大学医学部神 経内科	Brian G. Weinschenker Department of Neurology, College of Medicine, Mayo Clinic	第 60 回日本神経学会学術大会 2019 年 5 月 22 日(水)～25 日(土) 大阪
深田 俊幸 フカダ トシユキ 徳島文理大学薬学 部薬学科 病態分 子薬理学研究室	Thomas O' Halloran Department of Chemistry, Northwestern University	第 6 回国際亜鉛生物学会学術集会 (The 6th meeting of International Society for Zinc Biology (ISZB-2019)) 2019 年 9 月 9 日(月)～13 日(金) 京都ガーデンパレス(京都)
水澤 英洋 ミヅサ ヒデアキ 国立精神・神経医 療研究センター	Gregor Wenning Medical University Innsbruck	国際多系統筋萎縮症コンgres (International Multiple System Atrophy Congress) 2020 年 3 月 20 日(金)～22 日(日) 東京大学伊藤国際学術センター 伊藤 謝恩ホール
横溝 岳彦 ヨコミヅ タケヒコ 順天堂大学医学部 生化学第一講座	Charles Nicolas Serhan Harvard Medical School	第 60 回国際脂質生物学会議 (60 th International Conference on the Bioscience of Lipids, ICBL) 一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋 2-1-2) 2019 年 6 月 17 日(月)～21 日(金)

公益財団法人細胞科学研究財団

令和2年度研究助成募集要項

1. 研究助成の対象となるテーマ：

病因、病態の解明および疾病の予防、制御に寄与する細胞科学に関する研究。但し、本年度の助成研究対象分野として下記のテーマを指定いたします。

- ①「NAFLD・NASHの基礎と臨床」
- ②「遺伝子治療・最近の進歩」

2. 助成金額： 300万円／1件
採択件数： 10件以内

3. 応募資格： 国内の研究機関等に所属する令和元年9月1日現在満45才未満の独立した研究者（大型研究費を受けておられる方はご遠慮下さい）

4. 応募方法： (1) 本年度より応募方法がWeb申請に変わりました。
詳しくは財団ホームページの申請方法をご覧ください。
(2) 必ず、所属機関の長(学長、学部長、学校長、所長、病院長、センター長等)あるいは所属部門の長(教授、部長、専攻長等)の推薦を得て下さい。

推薦者は1名に限り推薦できます。ただし、推薦者が複数の機関に所属し役職を有する場合には、それぞれの所属機関あるいは所属部門から1名に限り推薦できます。

推薦状はWeb申請システムからダウンロードできます。

5. 応募受付期間： 令和元年9月2日(月)より 9月30日(月) 必着

6. 選考方法： 当財団選考委員会において選考し、理事会で決定いたします。

7. 報告義務： 収支報告および研究成果の概要を提出していただきます。

8. 情報公開について： 助成対象者のお名前、ご所属、研究題目等を当財団ホームページ等で紹介させていただきます。
研究成果は当財団刊行の研究報告集で公表いたします。

9. 採否通知および助成金の交付について：

採否は決定後直ち(令和2年3月頃)に申請者へお知らせいたします。
助成金は令和2年4月以降に贈呈いたします。

10. 連絡先：
公益財団法人細胞科学研究財団
〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号
TEL：06-6202-2139
FAX：06-6202-1996
URL：<http://www.shionogi.co.jp/zaidan/>

※ご提供いただきました個人情報につきましては、選考に関わる目的のみに利用させていただきます。

令和2年度育成助成募集要項

1. 育成助成対象者：

病因、病態の解明および疾病の予防、制御に寄与する細胞科学に関する研究を専門とする日本人の研究者で、国内外において更に高度の育成を受けようとするもののうち次の条件を満たす者とします。

 - イ. 当財団理事または評議員の推薦を受けた者
(各理事または評議員は1名に限り推薦できます)
 - ロ. 令和元年9月1日現在 満40才以下の研究者
 - ハ. 受入れ大学または学術研究機関が決定し、年度内(令和2年4月以降令和3年3月末までの間)にその育成の開始が予定されている者(国内育成に関しては、他大学または学術研究機関での育成を受ける場合に限ります)

二. 原則として1年以上の育成期間を予定している者

 - ホ. 同一の研究において他機関からの助成金が、海外:120万円、国内:60万円以下の場合重複を認めます。
 - ヘ. 留学先の変更は認められません。
2. 給付金額：

1件240万円まで/年 (国内は1件120万円まで/年)

採択件数：

4件程度
3. 給付期間：

1年間
4. 応募方法：

(1) 本年度より応募方法がWeb申請に変わりました。
詳しくは財団ホームページの申請方法をご覧ください。

(2) 推薦状はWeb申請システムからダウンロードできます。
5. 応募受付期間：

令和元年9月2日(月)より **10月31日(木)** 必着
6. 選考方法：

当財団選考委員会において選考し、理事会で決定いたします。
7. 報告義務：

収支報告および留学報告書を提出していただきます。
8. 情報公開について：

助成対象者のお名前、ご所属、研究題目等を当財団ホームページ等で紹介させていただきます。
研究成果は当財団刊行の研究報告集で公表いたします。
9. 採否通知および助成金の交付について：

採否は決定後直ち(令和2年3月頃)に申請者へお知らせいたします。
助成金は令和2年4月以降に贈呈いたします。
10. 連絡先：

公益財団法人細胞科学研究財団
〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号
TEL：06-6202-2139
FAX：06-6202-1996
URL：<http://www.shionogi.co.jp/zaidan/>

※ご提供いただきました個人情報につきましては、選考に関わる目的のみに利用させていただきます。

令和2年度国際交流助成募集要項

1. 国際交流助成対象者： 病因、病態の解明および疾病の予防、制御に寄与する細胞科学に関する研究を専門とする研究者で、次の条件を満たす者といたします。
 - イ. 当財団理事または評議員の推薦を受けた者
(各理事または評議員は1名に限り推薦できます)
 - ロ. 博士号を有するか、またはそれと同等以上の研究業績を有する者
 - ハ. 年度内(令和2年4月以降令和3年3月末までの間)に開催される細胞科学に関連した国内外での国際学術会議、シンポジウムに講演者として招聘される海外在住の研究者または重要な研究発表を行う国内在住の研究者
 - ニ. 国際間における共同研究またはそのための協議等も上記学会への参加に準ずるものといたします。
2. 助成金額： 20～50万円／1件 総額200万円
(助成額は学会への寄与の程度、開催地の遠近、開催期間の長短等を勘案して決定されます。希望助成額の大きき内訳をご記入下さい)
 3. 応募方法：
 - (1) 本年度より応募方法がWeb申請に変わりました。
詳しくは財団ホームページの申請方法をご覧ください。
 - (2) 推薦状はWeb申請システムからダウンロードできます。
 4. 応募受付期間： 令和元年9月2日(月)より **10月31日(木)** 必着
 5. 選考方法： 当財団選考委員会において選考し、理事会で決定いたします。
 6. 報告義務： 収支報告および学会出張報告書等を提出していただきます。
 7. 情報公開について： 助成対象者のお名前、ご所属等を当財団ホームページ等で紹介させていただきます。講演内容あるいは研究成果は当財団刊行の研究報告集で公表いたします。
 8. 採否通知および助成金の交付について：

採否は決定後直ち(令和2年3月頃)に申請者へお知らせいたします。
助成金は令和2年4月以降に贈呈いたします。
 9. 連絡先：

公益財団法人細胞科学研究財団
〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号
TEL：06-6202-2139
FAX：06-6202-1996
URL：<http://www.shionogi.co.jp/zaidan/>

※ご提供いただきました個人情報につきましては、選考に関わる目的のみに利用させていただきます。

令和2年度 研究助成金受領者
(第3回理事会において議決)

(1件300万円 10件, 計3,000万円)

テーマ1 : NAFLD・NASHの基礎と臨床

研究者	所属機関・職名	研究題目
清水 逸平 シズ イッセイ	新潟大学大学院医歯学総合研究科 先進老化制御学講座・特任准教授	分泌型線維化促進分子を標的とした非アルコール性脂肪性肝炎の治療法の開発
中川 勇人 ナカガワ ユウト	東京大学医学部附属病院 消化器内科・特任講師 (病院)	進行NASHにおける脂肪沈着減少 (Burned-out NASH) の病態解明とそれに立脚した新規治療法の開発
堀江 貴裕 ホリエ タカヒロ	京都大学医学部附属病院 循環器内科・助教	ノンコーディング RNA 制御による新たなNASH治療法の開発
柳田 圭介 ヤギダ ケイスケ	国立国際医療研究センター 脂質シグナリングプロジェクト・上級研究員	リン脂質操作マウスツールを用いた多価不飽和脂肪酸による脂肪肝抑制作用機序の解明
羅 智文 ロー ツウエン	公益財団法人がん研究会がん研究所 細胞老化プロジェクト・博士研究員	非アルコール性脂肪性肝炎の脂質代謝異常による発がん機構の解明

テーマ2 : 遺伝子治療・最近の進歩

研究者	所属機関・職名	研究題目
新井 康之 アライ ヤスユキ	京都大学医学部附属病院 検査部・細胞療法センター・助教	ゲノム編集技術を用いた効果増強型キメラ抗原受容体 (CAR) T細胞の開発
遠藤 裕介 エントウ ユウスケ	かずさDNA研究所 先端研究開発部 オミックス医科学研究室・室長	CRISPR/Cas9 TGA システムによるアレルギー疾患の新規治療法開発
二村 圭祐 ニムラ ケイスケ	大阪大学大学院医学系研究科 遺伝子治療学・准教授	腫瘍増悪化を惹起する選択的RNAスプライシング特異的制御法の開発
村上 祐介 ムラカミ ユウスケ	九州大学医学研究院 眼科学・助教	クリスタリン網膜症に対するCYP4V2遺伝子治療薬の開発
吉村 豪兼 ヨシムラ ヒデアキ	信州大学 学術研究院医学系 耳鼻咽喉科・助教	ヒト遺伝性難聴モデルマウスを用いた新規遺伝子治療法の創出

令和2年度 育成助成金受領者
(第3回理事会において議決)

(1件 240万円 4件, 960万円)

(海外)

研究者	所属機関名・職名	研究題目・留学先
小林 憲市 コバヤシ ケンイチ	滋賀医科大学 泌尿器科学講座・非常勤講師	iPS細胞由来腎オルガノイドを用いた常染色体優性多発性嚢胞腎の病態解明 Massachusetts General Hospital
庄嶋 健作 ショウジマ ケンサク	Salk Institute for Biological Studies 遺伝子発現研究室・ポスドク	生体内リプログラミングによる急性臓器障害治療法開発 Salk Institute for Biological Studies
中村 俊文 ナカムラ トシフミ	慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科・共同研究員	脂肪細胞MRを観点とした慢性腎臓病による血管・代謝障害の病態機序の解明 Cordeliers Research Center
森本 祥悠 モリモト ヨシヒロ	大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座 消化器外科学・大学院生	胃癌におけるMUC1-Cによる山中4因子の活性化と脱分化・可塑性惹起機構の解明 Dana Farber Cancer Institute

令和2年度 国際交流助成金受領者
(第3回理事会において議決)

(1件50万円 4件, 200万円)

(招聘)

招聘者名 所属機関	被招聘者名 所属機関	国際学会名・招聘研究機関名 期間・開催地
<p>菊池 章 キチ アキラ</p> <p>大阪大学大学院 医学 系研究科 分子病態生 化学</p>	<p>William Weis</p> <p>スタンフォード大学</p>	<p>Wnt 2020</p> <p>2020/09/22～2020/09/25</p> <p>淡路夢舞台国際会議場 (兵庫県淡路市)</p>
<p>北澤 茂 キタザワ シゲル</p> <p>大阪大学大学院 生命 機能研究科 ダイナミ ックブレインネット ワーク研究室</p>	<p>Catherine Dulac</p> <p>Harvard University</p>	<p>第43回日本神経科学大会</p> <p>2020/07/29～2020/08/01</p> <p>神戸コンベンションセンター</p>
<p>馬場 広子 ババ ヒロコ</p> <p>東京薬科大学薬学部 機能形態学教室</p>	<p>Klaus Nave</p> <p>Max Planck Institute for Experimental Medicine</p>	<p>第63回日本神経化学会大会</p> <p>2020/09/08～2020/09/14</p> <p>いちょうホール (東京都八王子市本町 24番1号)</p>
<p>原 英二 ハラ エイジ</p> <p>大阪大学微生物病研 究所 環境応答研究部 門 遺伝子生物学分 野</p>	<p>Manuel Serrano</p> <p>Institute for Research in Biomedicine (IRB)</p>	<p>国際細胞老化研究会 (ICSA) 2020 年度学 術会議</p> <p>2020/11/02～2020/11/05</p> <p>大阪府立国際会議場 (グランキューブ 大阪)</p>

前記のとおりご報告いたします。

令和2年6月

公益財団法人 細胞科学研究財団

理事長 塩野元三